わたしの外側、あなたの内側
昔話集
いっきん展
2019年度 総合基礎実技展
7.26fri-29mon
9:00-17:00 観覧無料
京都市立芸術大学 大学会館ホール・ホワイエ、大ギャラリー
総合基礎実技制作室、その他野外展示
京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

いとうきと展

2019年度　総合基礎実技展

「わたしの外側、あなたの内側に触れる」

総合基礎実技で制作した各課題の作品を構内各所に展示します。今年は「わたしの外側、あなたの内側」をテーマに、わたし⇔あなた、内⇔外に広がる過去や未来、世界や自然を見つめて対話し、創造することを目指しました。総合基礎実技展では、作品を他者にみせることを通して、わたしとあなたの新たな出会いや対話の在り方を探ります。

○総合基礎実技とは？

美術学部の新入生全員が所属の科に関係なく４クラスに編成され、実技や学科、専門分野の枠を超えた教員組織の指導による領域横断型の授業です。受験実技から、創作の世界へとスタートをきる上でとても重要なプログラムです。造形芸術の各領域に通じるテーマにもとづいて複数の課題を行います。各課題は、関連講義、ワークショップ、チュートリアル(個別指導)、個人またはグループによる制作、学外研修、発表、合評を組み合わせた多彩な内容で展開されます。

・第１課題　『ようこそ！～縄文的精神で歓待の器（場）をつくる～』

4月15日(月)～5月14日(火)

ようこそ京都芸大へ！ 初めて会うみんなで、お互いを歓待します。12000年も続いた縄文時代の生活に想いを馳せながら、グループごとに「七種の器」を制作。それらが集まってできる「大きな歓待の器＝場」に他のクラスを招いて盛大に歓待しました。素材と技法、物と事、縄文と歓待、器の意味の広がりを体験しました。

・第２課題　『各、描く、かく、、、鉛筆から？まで』

5月15日(水)～6月6日(木)

デッサン、アニメ、漫画、落がき、名画、イラスト、鉛筆、絵の具、ペンタブ、チョーク、墨etc.　「ルーツ」…わたしの「描く」はどこからやって来たか？
「限界」…「描く」ことの限界、どこまでを「描く」と認めるのだろうか？
「ルーツ」と「限界」この二つの言葉は歴史と未来と言いかえることが出来るかもしれません。これらのキーワードを手掛かりに「描く」ということを実践的に探求しました。

・第３課題　『ノーテーション：おきかえつなぐ』

6月7日(金)～6月27日(木)

アートがひとりよがりなら個人的なことは政治的な行為です。「おきかえつなぐ」では、行為の指示や再生の道具として生まれた記譜（ノーテーション）を手掛かりに、言葉・イメージ・環境と身体行為の関係を探りました。そこから、美術表現を静視的にではなく動体的に捉え直し、プライベートな表現とパブリックの未知の出会いを生み出すことを目指しました。

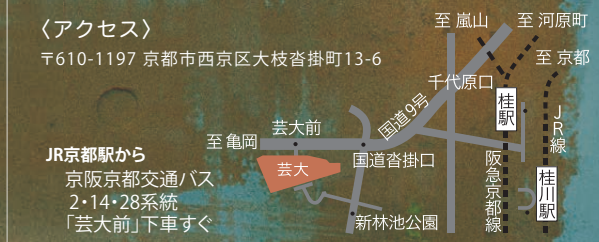
・第４課題　『昔話の世界をかたちにする』

6月28日(金)～7月19日(金)

言葉で語られたことを絵画や演劇、映画などの視覚的な表現で表わすことは、昔から世界のいたるところで多くの芸術家たちが行ってきたことです。言葉とイメージの関係という美術の根本問題に取り組むために、この課題ではいくつかの「昔話」を読み解き、独自の解釈や想像を通して、個人またはグループで視覚的なかたちに変換することを試みました。

〈アクセス〉

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6



JR京都駅から
京阪京都交通バス
2・14・28系統
「芸大前」下車すぐ

阪急桂駅東口から
京阪京都交通バス 1・2・13・14・25・28系統「芸大前」下車すぐ

〈お問い合わせ〉京都市立芸術大学事務局教務学生課 美術教務担当　075-334-2220（土日祝除く 8:30～17:15）　http://www.kcua.ac.jp